

折戸金具オプション

設計・施工ガイド

CONTENTS

押し引き自在丁番
764

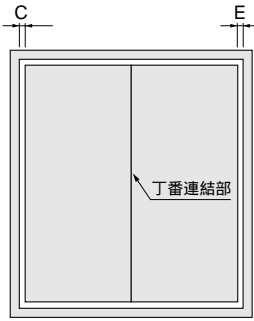
折戸用2軸丁番
765～766

下レールなし折戸用振止めセット
767

HD-37、47掘込み治具
768

設計ガイド

戸と枠とのすきま寸法



左右のすきま(折戸1組の場合)

折戸が開くときに必要となる左右のすきま寸法は、AFDシステム金具またはHRシステム金具と組み合わせたときを想定して算出してあります。

使用する吊り車の品番	用途
AFD-700または770-B	重量・中量間仕切折戸用上部ランナー
HR-220	間仕切折戸用上部ランナー

C + E

(フリーオープンタイプ使用吊り車：
AFD-700、770-BまたはHR-220)

戸厚/戸幅	300	350	400	450
30	4.3	3.7	3.3	2.9
33	4.7	4.1	3.6	3.2
36	5.1	4.4	3.8	3.4

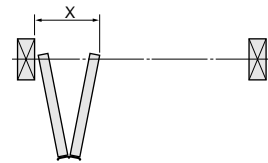
C + E

(吊元固定タイプ使用吊り車：AFD-700、770-B) CまたはE
(吊元仮固定タイプ使用吊り車：HR-220) (吊元側すきま寸法)

戸厚/戸幅	300	350	400	450	戸厚	C(またはE)
30	6.4	6.0	5.7	5.5	30	3.6
33	7.3	6.8	6.5	6.2	33	4.3
36	8.2	7.7	7.4	7.1	36	5.0

丁番結合部のすきま寸法は0mmの設定で大丈夫です。
上下のすきま寸法については、8章「折戸金具」のそれぞれのシステム金具をご参照ください。

戸を開けた時のX寸法



X寸法とは、開口部内に干渉する数値を表しています。

AFD-700または770-Bを使用し、フリーオープンタイプで吊元固定ストッパーを使用しない場合

$$\dots X = \frac{\text{戸厚}}{2} + 83$$

AFD-700を使用し、吊元固定ストッパーを使用する場合

$$\dots X = \frac{\text{戸厚}}{2} + 121 + \text{吊元側のすきま寸法}$$

AFD-770-Bを使用し、吊元固定ストッパーを使用する場合

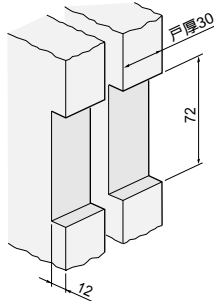
$$\dots X = \frac{\text{戸厚}}{2} + 108 + \text{吊元側のすきま寸法}$$

HR-220を使用し、フリーオープンタイプで吊元仮固定ストッパーを使用しない場合

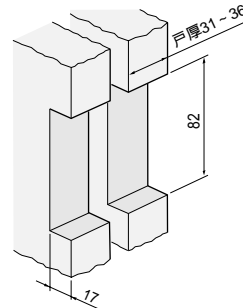
$$\dots X = \text{戸厚} + 107$$

戸の加工寸法参考図

戸厚30mm(調整プレート不使用)の場合の加工寸法



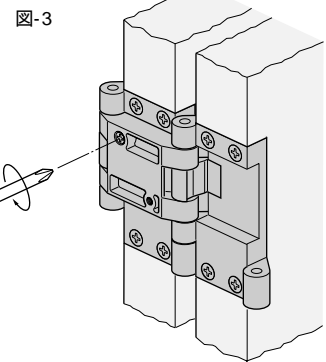
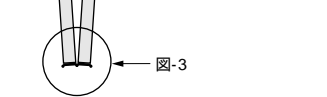
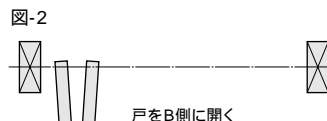
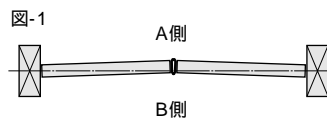
戸厚31~36mm(調整プレートを使用)の場合の加工寸法



施工ガイド

戸の蛇行修正方法

閉時に、戸が図-1のように蛇行している場合は、図-2のようにB側に戸を開いて丁番本体の調整ねじを回せば修正することができます。

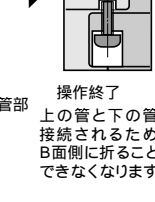
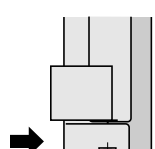
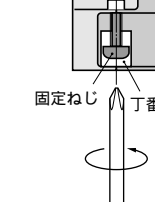
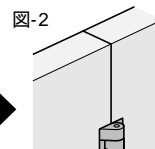
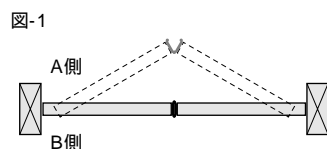


戸の折れる方向を限定する方法

ドライバー1本で折戸の折れる方向をどちら側か一方に限定することができます。

操作方法

図-1のように、仮に戸をA側のみに折れるようにしたい場合は、図-2のように戸を開めた状態で戸B側の丁番軸部にある固定ねじを図-3のように操作します。



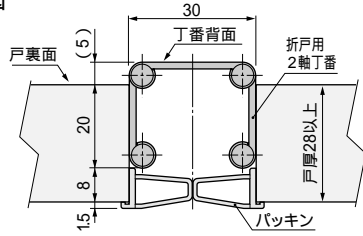
操作終了
上の管と下の管が接続されるため、B面側に折ることができなくなります。

- 1 ドア錠
- 2 丁番
- 3 開き戸金物
- 4 引戸錠
- 5 引戸金物
- 6 上吊式引戸金具
- 7 上吊式引戸金具OP
- 8 折戸金具
- 9 折戸金具OP
- 10 取手・引手
- 11 スライド丁番
- 12 スライドレール・ワイヤバスケット
- 13 収納・吊金具
- 14 その他の家具金物
- 15 消火器ボックス
- 16 手摺金具
- 17 諸金具・他

折戸用2軸丁番(収納折戸タイプ)

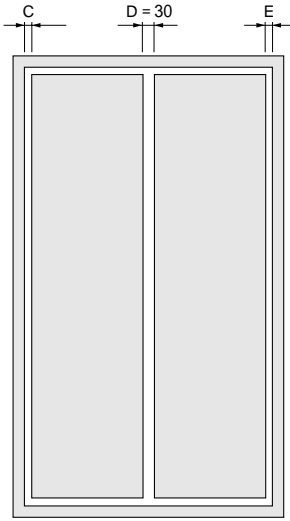
設計ガイド

金具の納まり参考図



()内寸法は戸厚28mmに使用の場合の寸法。
 収納折戸にご使用の場合は、裏面にはパッキンを取り付けません。
 戸の裏面と丁番の背面が同一線上でなくてもよいため、戸厚28mmから使用できます。

戸と枠とのすきま寸法



左右のすきま(折戸1組の場合)

折戸が開くときに必要となる左右のすきま寸法は、AFDシステム金具またはHRシステム金具と組み合わせたときの想定して算出しております。

使用する吊り車の品番	用途
AFD-200または280-B	重量・中量収納折戸用上部吊り車
HR-200	収納折戸用上部吊り車

C + D + E (フリーオープンタイプ 使用吊り車: AFD-200、280-B または HR-200)

戸厚 / 戸幅	300	350	400	450
28	32.1	31.8	31.6	31.4
30	32.4	32.1	31.8	31.6
33	33.0	32.6	32.3	32.0
36	33.6	33.1	32.7	32.4

C + D + E (吊元固定タイプ 使用吊り車: AFD-200、280-B)
 (吊元仮固定タイプ 使用吊り車: HR-200)

戸厚 / 戸幅	300	350	400	450
28	33.9	33.7	33.6	33.5
30	34.9	34.7	34.5	34.4
33	36.5	36.3	36.1	36.0
36	38.4	38.1	38.0	37.8

C または E
 (吊元側すきま寸法)

戸厚	C(またはE)
28	2.7
30	3.6
33	5.0
36	6.7

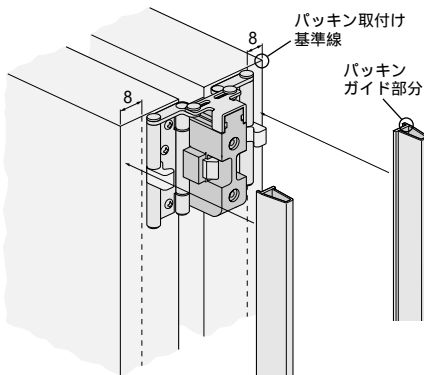
上下のすきま寸法については、8章「折戸金具」のそれぞれのシステム金具をご参照ください。

施工ガイド

金具の取付け方法及び戸の蛇行修正方法

丁番およびパッキンの取付け

丁番は戸の木口面に直付けします。その際、パッキンを取り付ける部分の寸法8mmを確保して取り付けてください。パッキンはガイド部分を戸の角部(基準線)に接合させて取り付けます。

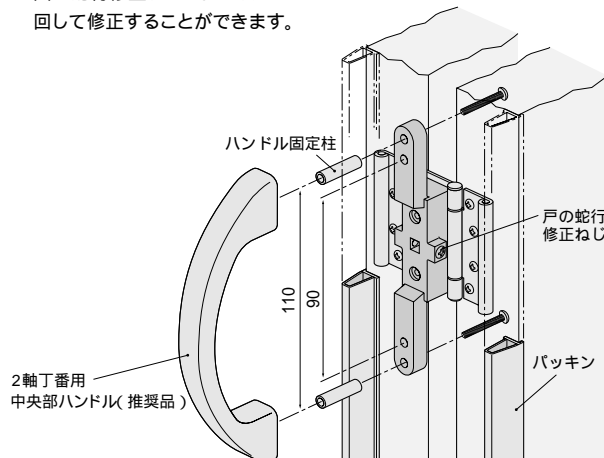


ハンドルの取付け

中央部用丁番に、ハンドルを取り付けます。取付けねじ穴間隔110mm及び90mmの2サイズのハンドルを取り付けることができます。なお、下図の推奨品は110mmです。

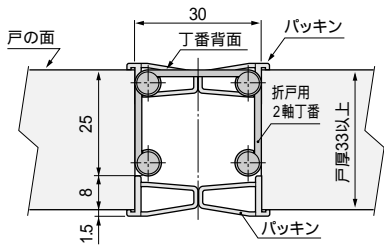
戸の蛇行修正

閉時に戸が蛇行している場合は、図の蛇行修正ねじをドライバーで回して修正することができます。



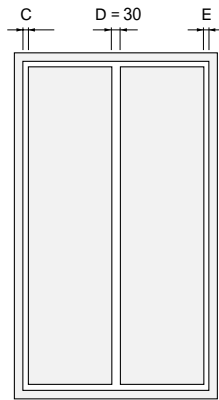
設計ガイド

金具の納まり参考図



戸の面と丁番の背面が同一線上(面一)になるように取り付けます。

戸と枠とのすきま寸法



左右のすきま(折戸1組の場合)

折戸が開くときに必要となる左右のすきま寸法は、AFDシステム金具またはHRシステム金具と組み合わせたときを想定して算出してあります。

使用する吊り車の品番	用途
AFD-700または770-B	重量・中量間仕切折戸用上部吊り車
HR-220	間仕切折戸用上部吊り車

C+D+E(フリーオープンタイプ 使用吊り車: AFD-700、770-BまたはHR-220)

戸厚/戸幅	300	350	400	450
33	33.0	32.6	32.3	32.0
36	33.6	33.1	32.7	32.4
40	34.5	33.9	33.4	33.0

C+D+E(吊元固定タイプ 使用吊り車: AFD-700、770-B)
(吊元仮固定タイプ 使用吊り車: HR-220)

戸厚/戸幅	300	350	400	450
33	35.9	35.7	35.5	35.3
36	37.0	36.7	36.5	36.3
40	38.6	38.2	38.0	37.7

CまたはE
(吊元側すきま寸法)

戸厚	C(またはE)
33	4.3
36	5.0
40	6.1

上下のすきま寸法については、8章「折戸金具」のそれぞれのシステム金具をご参照ください。

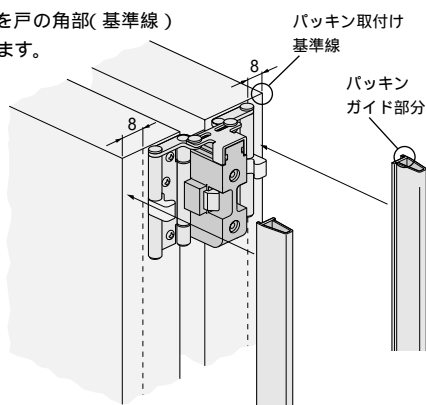
施工ガイド

金具の取付け方法及び戸の蛇行修正方法

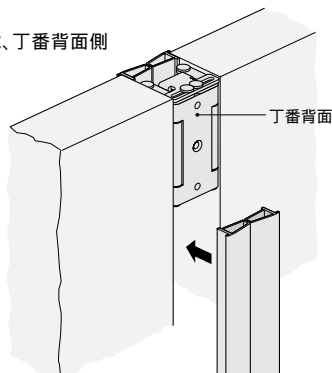
丁番およびバックインの取付け

丁番は戸の木口面に直付けします。その際、バックインを取り付ける部分の寸法8mmを確保して取り付けてください。

バックインはガイド部分を戸の角部(基準線)に接合させて取り付けます。



間仕切折戸に使用する場合は、丁番背面側にもバックインを取り付けます。



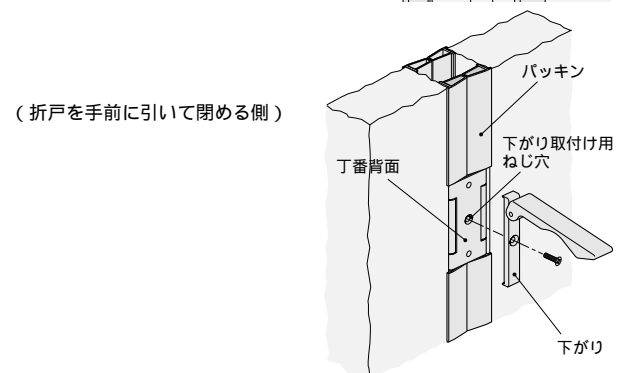
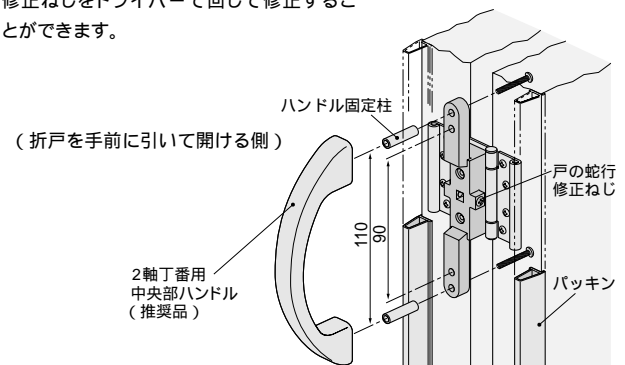
ハンドルの取付け

中央部用丁番にハンドル及び下がりを取り付けます。

中央部丁番には取付けねじ穴間隔110mm及び90mmの2サイズのハンドルを取り付けることができます。なお、下図の推奨品は110mmです。

戸の蛇行修正

閉時に戸が蛇行している場合は、図の蛇行修正ねじをドライバーで回して修正することができます。

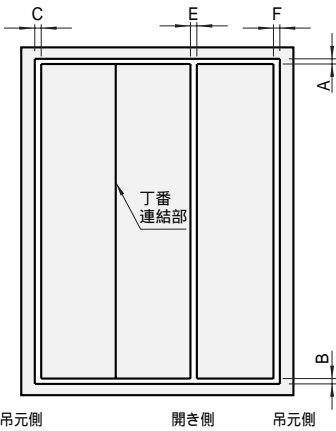


- 1 ドア錠
- 2 丁番
- 3 開き戸金物
- 4 引戸錠
- 5 引戸金物
- 6 上吊式引戸金具
- 7 上吊式引戸金具OP
- 8 折戸金具
- 9 折戸金具OP
- 10 取手・引手
- 11 スライド丁番
- 12 スライドレール・ワイヤーバスケット
- 13 収納・吊金具
- 14 その他の家具金物
- 15 消火器ボックス
- 16 手摺金具
- 17 諸金具・他

下レールなし折戸用振止めセット

設計ガイド

戸と枠(または床)との必要すきま寸法



上のすきま (A = レールと戸の間のすきま)

HRシステム、HDシステムをご参照ください。

下のすきま (B = 枠または床と戸の間のすきま)

B = 13 ~ 16

左右のすきま (「両開き折戸」と「折戸 + 開き戸」とは同一寸法になります)

C+E+F

使用丁番: HD-35

戸厚 / 戸幅	300	350	400	450
26	6.9	6.5	6.2	5.9
30	10.4	9.9	9.5	9.2
33	13.7	13.1	12.7	12.4
35	16.1	15.5	15.1	14.8
40	22.7	22.1	21.6	21.2

E(折戸と折戸または開き戸のすきま寸法)

使用丁番: HD-35

戸厚 / 戸幅	300	350	400	450
26	2.9	2.5	2.2	1.9
30	3.4	2.9	2.5	2.2
33	3.7	3.1	2.7	2.4
35	3.9	3.3	2.9	2.6
40	4.5	3.9	3.4	3.0

C=F

(吊元側すきま寸法)

戸厚 / 戸幅	C=F
26	2.0
30	3.5
33	5.0
35	6.1
40	9.1

吊元側

開き側

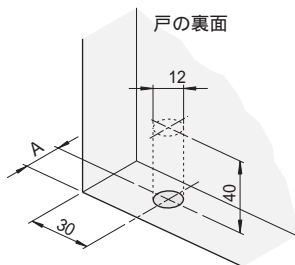
吊元側

以上の左右すきまは「上下の金具の軸位置 = 戸端から30mm」として算出しています。

釘番結合部のすきまは0mmの設定で大丈夫です。

戸と枠(または床)の加工寸法参考図

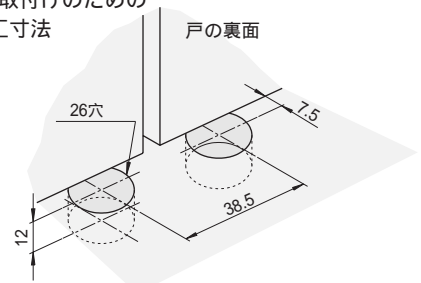
下部ピボット (HD-16) の取付け加工寸法



HRシステム使用の場合
A = 戸厚 - 15

HDシステム使用の場合
A = $\frac{\text{戸厚}}{2}$

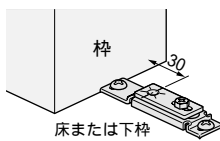
ストライク (HD-57) 取付けのための下枠(または床)の加工寸法



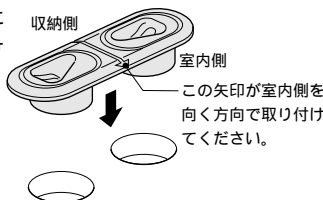
金具の取付け方法

- 1 レール・吊り車など上部折戸金具及び釘番の取付けについては、HRシステム、HDシステムをご参照ください。

- 2 床または下枠にHD-15NLを取り付けます。

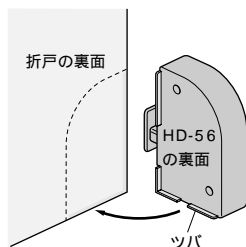


- 3 床または下枠に設けた加工穴にHD-57(ストライク)を取り付けます。



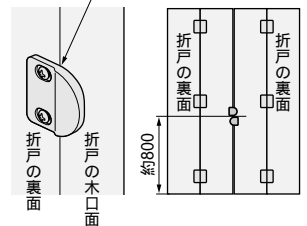
- 4 戸を枠に吊り込みます。吊込みの手順につきましてはHD又はHRの頁をご参照ください。

- 5 戸にHD-56(振止めラッチ)を取り付けます。HD-56の裏面ツバ部を戸の裏面下部コーナーに合わせて取り付けてください。



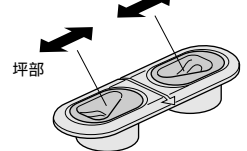
- 6 戸の裏面にHD-58(補助プレート)を取り付けます。取付け位置は下から800mmくらいが目安です。左右の部材はぶつからないように互いに違いに取り付けてください。

金具の裏面に傾斜が付いています。傾斜がはじまる付近を戸の角に合わせてください。



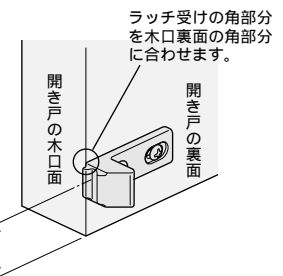
- 7 ラッチが入りにくい場合は、HD-57(ストライク)のねじをゆるめ、坪部の位置をスライドさせて位置調整をしてください。

左右にスライドします。



- HD-59(開き戸用ラッチ受け)の取付け
HD-59(開き戸用ラッチ受け)を図の要領で取り付けます。

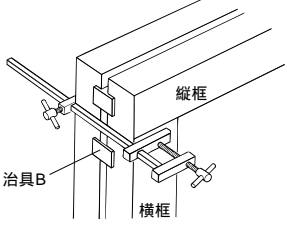
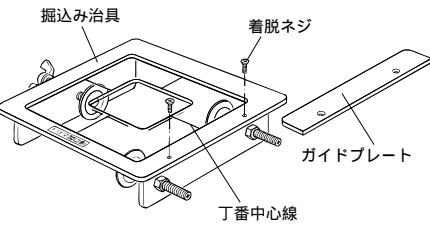
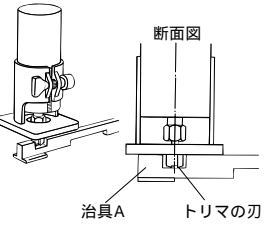
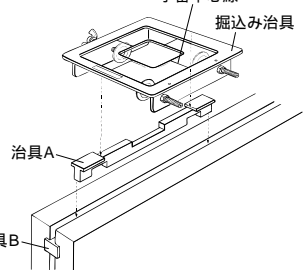
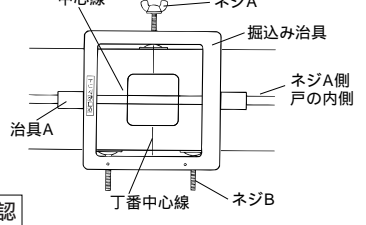
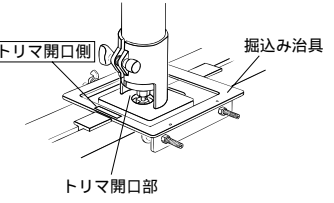
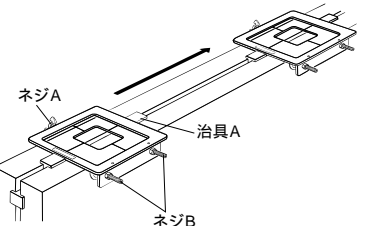
21 戸の下辺からラッチ中央位置までの寸法



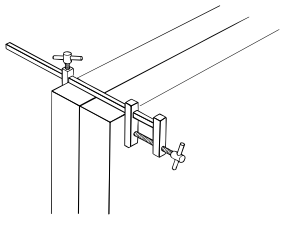
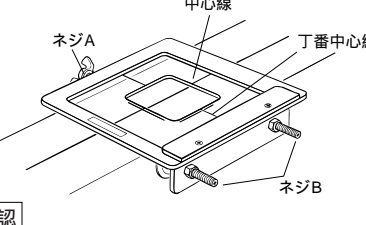
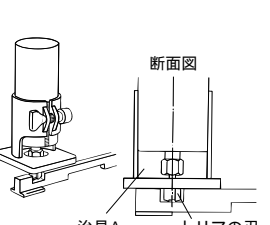
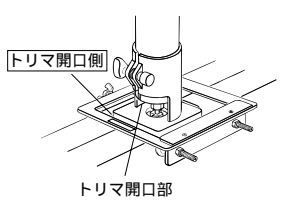
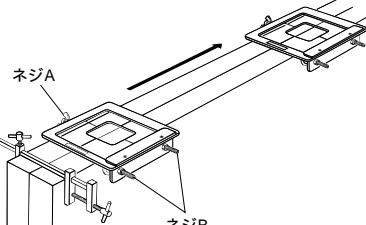
施工ガイド

HD-37、47 掘込み治具

使用方法 (額縁があるドアの場合:額縁が戸の面より1~5mm出ている場合)

<p>1 戸を2枚背中合わせにして、横框側に治具Bを挟み、その上をハタ金で固定します。</p> 	<p>2 掘込み治具のガイドプレートを、着脱ネジをゆるめて取り外します。</p> 	<p>3 治具Aの「掘込み深さ定規」に合わせて、トリマの刃の寸法を決めます。</p> 
<p>4 丁番取付け位置に治具Aを挟み、その上に掘込み治具を取り付けます。</p> 	<p>5 ネジA、Bを動かして、掘込み治具の中心線をネジA側の戸の内側に合わせます。</p>  <p>確認 このとき、ネジA、Bをしっかり締め込み、治具が動かない事を確認してください。</p>	<p>6 トリマの開口部を掘込み治具の「トリマ開口側」に合わせて。その後、掘込み治具のアルミフレームにならい掘り込みます。</p>  <p>ご注意 上記以外の向きで使用すると、治具を破損いたします。</p>
<p>7 掘込み治具を次の丁番位置に移動する場合は、ネジAをゆるめて治具Aと一緒に移動させます。</p>  <p>ご注意 ネジBはゆるめないでください。</p>	<p>8 次の丁番取付け位置に移動後、ネジAを締めて「6」の作業手順に従って掘り込みをします。</p>	

使用方法 (フラッシュドアの場合)

<p>1 戸を2枚背中合わせにして、両端をハタ金で固定します。</p> 	<p>2 丁番取付け位置を決め、ネジA、Bを回して、戸の合わせ目に掘込み治具の中心線を合わせます。</p>  <p>確認 このとき、ネジA、Bをしっかり締め込み、治具が動かない事を確認してください。</p>	<p>3 治具Aの「掘込み深さ定規」に合わせて、トリマの刃の寸法を決めます。</p> 
<p>4 トリマの開口部を掘込み治具の「トリマ開口側」に合わせて。その後、掘込み治具のアルミフレームにならい掘り込みます。</p>  <p>ご注意 上記以外の向きで使用すると、治具を破損いたします。</p>	<p>5 掘込み治具を次の丁番位置に移動する場合は、ネジAをゆるめて移動させます。</p>  <p>ご注意 ネジBはゆるめないでください。</p>	<p>6 次の丁番取付け位置に移動後、ネジAを締めて「4」の作業手順に従って掘り込みをします。</p>

- 1 ドア錠
- 2 丁番
- 3 開き戸金物
- 4 引戸錠
- 5 引戸金物
- 6 上吊式引戸金具
- 7 上吊式引戸金具OP
- 8 折戸金具
- 9 折戸金具OP
- 10 取手・引手
- 11 スライド丁番
- 12 スライドレール・ワイヤバスケット
- 13 収納・吊金具
- 14 その他の家具金物
- 15 消火器ボックス
- 16 手摺金具
- 17 諸金具・他